

地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助金制度について

経済産業省（資源エネルギー庁）において、「省エネルギー設備導入補助金」制度が開始されました。

工場やオフィス、店舗等において、エネルギー削減効果が確認できる最新モデルの省エネ機器等を導入予定のある事業者の方はご検討下さい。

1. 補助金制度名称：地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助金
(最新モデル省エネルギー機器等導入支援事業) A類型
2. 予算額：800億円程度
3. 補助率：1／2 以内（中小企業）
4. 補助金の上限・下限：上限 1事業者あたり 1.5 億円 下限 1事業者あたり 50 万円
5. 補助金執行団体：[一般社団法人環境共創イニシアチブ \(sii\)](https://sii.or.jp/category_a_26r/shinsei/note.html)
U R L : https://sii.or.jp/category_a_26r/shinsei/note.html
6. 補助対象事業者：事業活動を営んでいる法人及び個人事業主（新規事業を除く）
7. 交付申請受付期間：平成 27 年 3 月 16 日（月）～12 月 11 日（金）16 時（必着）
(予算額に達し次第締切 申請は 1 事業者につき 1 回)
8. 補助対象機器に該当すると思われる自動車整備用機器等の例
①塗装乾燥ブース
②赤外線塗装乾燥装置
③スポット溶接機
④赤外線乾燥装置
⑤インバーター制御装置付油圧リフト
⑥インバーター制御装置付エアコンプレッサ
⑦インバーター制御装置付門型洗車機
⑧高効率マルチエアコン
⑨遠赤外線利用暖房装置
⑩高周波点灯方式照明器具
⑪LED 照明器具

【補助対象の機器であるかは、購入予定である販売店又は製造メーカーにご相談下さい】

※申請等についてのお問合せ先 ※

補助金執行団体：一般社団法人環境共創イニシアチブ (sii)

TEL : 0570-001-290

URL : https://sii.or.jp/category_a_26r/shinsei/note.html

ケースその1

【内容】内容：車検に出した自分の車が猛スピードで走っている

- ・車名：軽自動車 ・登録年月：不明 ・走行距離：不明

初めて近くの整備工場へ車検を依頼して台車を借りた。翌日国道を走行中に猛スピード（80km以上）で自分の車（代車）を追い抜いていく自分の車（車検を依頼した車）を見かけた。車検に出した車が道を走っているのも理解できない。初めて入庫した整備工場なので直接注意しづらい。名前は出さずに注意してほしい。

【対応】

相談者へ、認証工場（持ち込み車検）と指定工場（自らの事業場で検査）の違いを簡単に説明。認証工場で持ち込みの際に車を見かけたと想定する。整備工場へは苦情があったことを伝え、制限速度遵守をお願いする。

ケースその2

【内容】たばこを吸われる

- ・車名：軽自動車 ・登録年月：平成19年 ・走行距離：不明

父のお付き合いで、近くの整備工場へ車検を依頼。車検終了の連絡をもらい、父と車を取りに行き、乗車したところ「たばこ臭い」。たばこ臭いことをその場で社長に伝えると、ファブリーズらしき物を撒いて「どうぞ」と言われた。自分はたばこを吸わないので少しでも残っていると気になる。ファブリーズらしき物を撒いて「どうぞ」も憤慨である。父からなだめられてその場は帰ったが、やはり納得がいかない。注意してほしい。

【対応】

喫煙車・禁煙車問わず、お客様の車ではたばこを吸わないよう指導する。

スペアタイヤ格納具脱着作業時の注意事項について

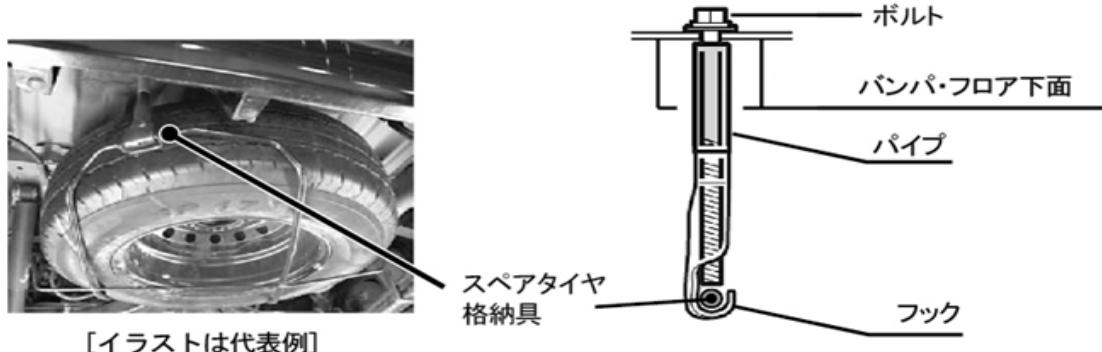
スペアタイヤ格納具の床下搭載車両において、定期点検等でタイヤの外観並びに空気圧を点検するため、格納具のボルトを脱着しますが、ボルトが締め付け不足の状態で使用されると、タイヤがガタついて、走行中に外れるおそれがあります。

つきましては、スペアタイヤ格納具の脱着作業時の注意点をお知らせしますので、確実な点検整備の実施をお願いいたします。

■ 脱着作業時の注意点

スペアタイヤ格納具は、下図のようにボルト、パイプ、フックの3点で固定されています。

組み付け時にはボルトにパイプを必ず通し、フックとボルトが勘合した状態で、フックに格納具をセットした後、ボルトをしっかりと締め付けます。



■ ボルトの締め付け

- ボルトを締める前に、パイプがボルトにセットされていることを確認して下さい。
(パイプの設置が無い車両は、ボルトのみとなります。)
- 整備書を確認して規定の締め付けトルクで締め付けて下さい。
- パイプのガタが無くなっていることを確認して下さい。
(ガタの確認が出来ない場合はボルトの先端が格納具に当たっている事を確認。)
- 本締めはインパクトレンチを使用せず、ホイールナットレンチで行って下さい。
※インパクトレンチで本締めを行うと、格納具を損傷するおそれがあります。



■ タイヤの固定状態

- フックに格納具が正しくセットされ、確実に固定されていることを、タイヤを揺すって確認して下さい。

